

「にほんご広場なんと」皆が集まる日本語教室への道

南砺市友好交流協会 渡辺幹子

■はじめに■ R6年度「にほんご広場なんと」の活動体制

2024年
新規開設

クラス	入門クラス	初級クラス	活動クラス
主催	とやま国際センター（県）	南砺市友好交流協会	〔ボランティア〕サポーター （対話型）
実施	日本語教師（教室型）		
回数	年22回（同日開催）		月2回程度
日曜開催	9:00～10:30	10:45～12:00	10:00～11:30

当協会の役割：初級クラス運営、広報、問い合わせ窓口、会場手配

■課題背景と取り組み■

令和5年、市が行った外国人住民向けのアンケートで、回答者の9割が「もっと日本語を勉強したい」と回答。そこで、初級クラスを新設したが、入門・初級の参加者数は各2名～4名と少なく、県センターは次年度5名以上の申込がなければ入門クラスは開講しない意向とのことだった。一方活動クラスは「1対1の対話活動→全体で発表」というスタイルが基本だが、外国人の参加者10～15名程に対し、サポーターは各回4～5名程（コアメンバー8名）の参加であり、理想的な形で対話活動を行うのが難しい状況である。そこで、活動クラスのサポーターと入門初級の参加者の増員を目標とした。

課題① 活動クラスのサポーターが少ない…広報不足

活動クラスでは、1対1の対話活動が「対等な関係」「(外国人参加者とサポーターの)双方向の学び」に欠かせないと思う。しかし、サポーター希望者の新規問い合わせや見学はあるが継続する人が少ない。サポーターが増えない・定着しない理由として、以下の2点が考えられた。

- ① サポート希望者のニーズ〈外国人に教えてあげたい〉と教室の開催方法〈交流と双方向の学びを趣旨とし、教師と生徒という関係ではない〉がマッチしていない可能性あり
- ② 市内で活動自体を知らない人が多い

つまり、どのような目的で行っている教室かということが周知できていないことが課題だと考えた。

【取り組みと今後の計画】

地域日本語教育と外国人との協働について市民向けの講座を企画（R7年3月2日開催予定）

南砺市と包括連携を結ぶ金沢大学に講師派遣を依頼。長らく富山県で地域日本語教育を支えてきた方を講師に迎え、外国人住民の現状や外国人とのコミュニケーション、「言葉の支援」についてワークショップを交えた講座を開催。そして関わり方の一つとしてにほんご広場のサポーターの活動があるという事を提示し、サポーター獲得も目指す。（目標：5名の増員）

広報対象⇒一般市民、当協会の登録ボランティア（子供の日本語教室サポーター、通訳・翻訳ボランティア、フェスティバル運営ボランティアが登録⇒活動に親和性があり興味を持つ人が一定数いると仮定）

課題② 入門・初級レベルの参加者を増やしたい

取組みの途中、県からの講師派遣が来年度は今年の半分程度になることがわかった。そのため日本語教師が行う基礎教室 2 クラスの内容がなかなか決まらなかったが、出来る事から考えていくことにした。

【取り組みと今後の計画】

広報先の見直し…

現状：◎市役所に住民登録に来た外国人にチラシの手渡しを市に依頼。△市内公共機関（市役所・図書館など外国人が頻繁に利用していない場所）にチラシやポスターを設置。

計画：①スーパーや金融機関等、より外国人住民が行く場所にも広報物を設置 ②外国人が勤務する企業へのアプローチ（「(自分の意志ではなく) 家族や友人、会社の人の勧めで来た」方は長続きしない傾向があるため、参加する本人の気持ちを大切にしたい)

外国人コミュニティへのアプローチ…

キリスト教会利用者（日系人コミュニティ）とインドネシア人コミュニティへアプローチを行った。

① 予想：キリスト教会では日曜日にミサを行っている。（だから日本語教室に来られない）

実際：周辺地域に複数の教会があり、開催曜日・時間もまちまちだった。また、複数の教会に参加している方いわく「参加している人の多くは日本語を話せて、入門初級レベルではない」とのこと。

② 市内 70 人程のインドネシア人住民が参加したコミュニティミーティングにて、チラシを配ってもらった。その結果、活動クラスへの参加希望者はさらに増えたが、入門初級レベルの方は少ないようだ。ただし、現在の活動クラスに参加するのはまだ難しいレベルの方もいるという事もわかった。

多言語での広報…活動クラスでの活動の一環として、多言語のチラシを作成するつもりであったが、来年度の開催内容がなかなか決まらず、また1月2月は降雪で活動クラスが休みだったため、着手できず。

上記の実践や関係者への相談を重ねた結果、来年度のにほんご広場の開催内容が以下の通りに決まった。

R7 年度「にほんご広場なんと」の活動体制案

クラス	初級クラス 1	初級クラス 2	活動クラス
主催	南砺市友好交流協会	とやま国際センター（県）	〔ボランティア〕サポーター (対話型)
実施	日本語教師（教室型）		
回数	20 回	10 回（年度前半）	月 2 回程度
レベル	R6 入門クラス修了者	R6 初級クラス修了者	初級クラス 2 終了以上

■実践を通して感じた事と今後の展望■

一つの「にほんご広場なんと」でありながら、3つのクラスの主催がそれぞれ違うことによる難しさと、一方で関係者が多いが故に相談できる先もより多いという強みを実感した。関係者に相談を聞いていただく中で、「初級クラス」を立ち上げたそもそもの理由は「入門と活動の中間層に学ぶ機会を作りたい」という思いからであったのを思い出した。そして取り組みの中で「入門初級レベルではないが、活動クラスに参加することがまだ難しい」という層の人たちが一定数いるという事がわかった。そこで現在の受講者や、教室参加に前向きな方に学びの機会を作る方が元々の目的に沿っていると気が付いた。

また、活動クラスのサポーターが増えれば、初心の参加者も受け入れやすくなると考えられるので、サポーターの増員への取組と、活動クラス運営へのフォローに努めたい。